

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 308 回 NHK「つばさ」に学ぶ～ Changeの真髄

2009.4.26

埼玉県が“朝ドラ”初の舞台になった、連続テレビ小説の第 80 作目、「つばさ」。美しい蔵造りの街並みや、百年以上も時を告げてきた時の鐘、華やかな山車が繰り出す川越まつりなどなど、「小江戸」と呼ばれる風情を残す「川越」を主な舞台に、ドラマは展開される。毎朝、楽しみにご覧になっている方、多いと思う。

ヒロイン: 玉木翼(多部未華子)は、川越市にある老舗の和菓子屋「甘玉堂」でのびのびと育ち、子供の頃はサッカーチームで男子顔負けの活躍をしていた。が、10歳の時に母親が家を出たことから一転、一家の主婦役に。ひょんなことからコミュニティ放送局の開設に関わり、今までの人生の大きな転換を迎える。

そのコミュニティFM放送局「ラジオぼてと」社長・真瀬昌彦(宅間孝行)は、元官僚で、独善的な性格から仲間ができない。いつの間にラジオの仕事に引き込まれていく翼だが、夢を目指せなくなっていた自分に気付き、また仄かな、淡い初恋とのハザマで悩む翼に、真瀬が語りかける...

(若干、飯島流に、勝手に解釈したが)

「遊びにも、仕事にも、本気を出してやる！それが今だ！！

今まで、失敗にビクビクしていて、本気なんか、出したことがない。

でも、人は変わるために生きている。

愚かな人間は、何か失敗すると、それを状況のせいにする。

賢い人間はその時、自分を変えて、もう一度やり直す。

ずっと同じやり方に縛りついている、臆病者に限って、

変わるの面倒だ！いや、変わるなんてできっこない...

そう、思い込んでいる。

実は、変わるの簡単だ。

いつもの自分が、絶対しないことを、とにかくやってみればいい！

ただ、それだけのことだ！」

(4月24日 NHKBSハイビジョン午前7時30分放映連続テレビ小説「つばさ」より)

もちろんこれは、真瀬自身に言い聞かせている言葉でもあった。

今回のコラムは、この言葉を伝えたかった。「Change」とは聞こえがいいが、勇気がいる。何も変わらない...のではなく、慣れた事への安心感、つまり、変わる事への不安感が、変化を拒む。結果、自分も何も、変わらない。我々はこの繰り返しで、もう、随分「時」を費やしてしまった。真瀬の言葉の重みを、今度は、自分自身に問い質す時である。